

# 松阪市子ども支援研究センターだより

E-mail:kyo.div@city.matsusaka.mie.jp http://www.city.matsusaka.mie.jp

松阪教育支援センター「鈴の森教室」TEL 26-1900 FAX 26-1901 E-mail: suzunomori@matsusaka.ed.jp

松阪教育支援センター「うれしの教室」TEL 42-7374 FAX 42-4568 E-mail: uresino-k@matsusaka.ed.jp

## 一読の価値あり！ 子ども支援研究センターの蔵書たち！



私ども松阪市子ども支援研究センターでは、毎年、教育を取り巻く様々な課題解決の一助になるべく研修講座を、鋭意企画し、開催をしてきております。それを、市内外の多数の先生方に受講して頂いていることは喜びに堪えません。

しかし、あまり先生方に知られていないのが、お招きした講師の方々著書や、時事の教育関係の図書を丁寧に購入し、いつでも先生方に貸し出しできるようにしているということです。今日教育課題の最新刊が子ども支援研究センターの事務所や蔵書スペースに多数揃っております。松阪市図書館や橋西地区市民センター、クラギ文化ホールにお越しになった際に、当センター事務所に来て頂き、「蔵書」コーナーの本をご活用頂きたいと願っています。

私から言うのも何ですが、事務所はとてもアットホームな雰囲気ですので、お気軽に「白い引き戸」を開けて入ってきて頂くことを心よりお待ちしております。

今年度、新たに蔵書に加えた本に「菊池省三編著 一人ひとりが輝く、ほめ言葉のシャワー②（日本標準）」というのがあります。

菊池省三先生という名前や、「ほめ言葉のシャワー」という言葉は今ではよく耳にします。昔から「子どもは叱るよりほめて育てよ」という言葉がある通り、教育現場でも「ほめる」ことはよくしますし、「友だちの良いところ見つけ」などというの、多くの学級で行われています。しかし、「ほめる」活動が続くと、「やみくもに」ほめたり、「とりあえず」ほめたりが生まれ、往々にしてマンネリ化の壁が訪れてきます。

ここで、菊池先生の言葉を借りると、先生は、「ほめる」というより、「見つけている」のだ、ということです。「過去と比べてプラスの変化をほめる」「小さな事実をほめる」など、良いところを「見つけ出す『目』」を先生がしっかり持ってほめることで、学級全体にその「目」が培われていくのです。友だちのいいところ、頑張っているところを見つけるには、観察が必要です。そのためには、関心がなければ、見つけられません。愛情の第一歩目は、関心。愛情の反対言葉は、無関心。子どもたちに「関心」を持ち、「観察」する目を持つ学級づくりを担当が身をもって表現して、「ほめ言葉のシャワー」の学級づくりができていきます。今回ご紹介した本には、その様々な手法が載っています。

最後になりましたが、この一年、子ども支援研究センターの活動にご協力、ご支援をいただき、本当にありがとうございました。

平成27年度事業も、より充実した内容でご提供できるよう計画、準備を進めています。ぜひ活用していただき、「明日」からの子どもたちの豊かな学びに、心の成長につなげていただくことができれば幸いです。どうぞよろしくお願いいたします。

最後までセンターだよりをお読みいただき、ありがとうございました。（山本 嘉）



新着書籍、過去の書籍は、ホームページで掲載しています。

過去の購入書籍は2001年から掲載し、ジャンル別でも掲載してあります。

\*インターネットでの検索方法\* (「yahoo!」などの検索サイトを使用)

1. 「松阪市子ども支援研究センター」と入力
2. 「子ども支援研究センター | 松阪市」を選択
3. 「蔵書案内」を選択

検索してね!



## \* 子支研 研究集録をご活用ください \*

市内の小学校のご協力のもと、2人の長期研修員が研究したものをまとめた研究集録を、各園・学校に送付させていただきます。どうぞご活用ください。

(当センターに予備がありますので、個人的に必要な方はご連絡ください。)

### 児童の課題に即し学力向上をめざした国語科の授業づくり

#### —全国学力・学習状況調査の結果を活用して— 研究集録 第127集

(長期研修員 松本 勝之)

平成19年度より、全国学力・学習状況調査が実施されて8年がたちました。この調査は、単に学力を数値化するものではなく、目的には、児童生徒の学力や学習状況をはかり、結果を分析することにより、それぞれの学校の指導のあり方の改善につなげていくものと掲げられています。

本研究では、協力校の全国学力・学習状況調査の結果より、国語科の平均正答率や解答類型を経年分析し、また学習状況調査の児童質問紙を参考にしたアンケートから学習の実態を把握しました。そこで、児童の課題を「文章の要旨をとらえる」「条件に合わせて書く」とし、この課題改善に向け、「単元を貫く言語活動」を設定した授業づくりをし、学力向上をめざして取り組みました。

第5学年を対象として、「百年後のふるさとを守る」では「人物紹介事典づくり」を、「天気を予想する」では「リーフレットづくり」を設定した授業づくりに取り組み、その中で、「要旨の読み取り」や「要約」の技能を身に付けるための実践に重点を置きました。それぞれの学校で、指導資料の一つとして活用していただければ幸いです。

### 郷土の偉人に学ぶ授業づくりⅣ

#### —松阪開府の祖 蒲生氏郷に学ぶ— 研究集録 第128集

(長期研修員 更屋 博史)

少子高齢化、核家族化などの社会変化により、児童が家庭や地域と関わりながら歴史を学んだり、心を磨いたりする機会の減少が予想されます。こうした中、地域を大切にする心や地域に貢献しようとする態度を養うことの重要性は、今後一層高まるものと考えられます。

松阪市教育委員会は、「郷土の偉人に学ぶ教育」を推進しており、各学校においては『郷土の偉人を知る』の冊子を活用した学習が進められています。

本研究では、「松阪開府の祖」と呼ばれる蒲生氏郷を取り上げました。毎年秋に「氏郷まつり」が行われ、その名を広く知られる蒲生氏郷は、1588年に四五百森(よいほのもり)に新しい城を築き、城下町を「松坂」と名づけた人物です。蒲生氏郷による参宮街道(伊勢街道)の移設、楽市楽座、商人の誘致などの政策は、松阪が商業都市として発展する基盤となりました。蒲生氏郷の町づくりについて知ることは、松阪の歴史に対する興味・関心につながると考えます。

研究にあたり、市内の小学校2校において、松坂城や旧長谷川邸のフィールドワーク、ゲストティーチャーを活用した授業などを行いました。児童の発言や感想を中心に研究の成果をまとめるとともに、授業で使用した資料なども載せました。郷土の偉人に学ぶ学習を進める際の指導資料として活用していただければ幸いです。